

あとがき

コンビニ研究の意義は、コンビニが私のこれからの生活において不可欠なものであるという見方からすれば非常に意義深いものであったと思う。日々の生活に密着していればこそ知らなかったことも多く、聞き取り調査に際して快く話を聞かせてくださったコンビニオーナーや従業員の方々五名に心から感謝したい。

行政学研究室に在籍するなかで、行政学的なことがほとんど見られない論文を書いてしまった今、言い訳のように、恩師である中村先生のある言葉を繰り返しつつやってみる。それは「人間の間には常に行政学的なことはある」というような言葉であったか。それを一年次に受講した初期セミナーのときに初めて聞いてから、行政学概論、行政学演習ゼミ、ジョイント合宿、卒論ゼミと、事あるごとに耳にしてきたせいか、そういえばなにか行政学的なところがあるような気がするから不思議である。しかし論文を書く際にはゼミで学んだことが大いに役立った。それは、頭でなく足を使うことである。中村先生の「最後は自分が見て聞いてきたことが一番役に立つ」という言葉は、この論文を書く際に最も実感したことのひとつであろう。中村先生の目にはどう映っていたかどうかはわからないが、行政学研究室の抱える問題児の一人として言葉には言い尽くせないほど感謝している。

ゼミの先輩、後輩、そして同期のゼミ生の人達とも、楽しく充実した時間を過ごせたと思う。ジョイント合宿をはじめとした他校とのイベントでも埋もれることない様々なキャラの持ち主ばかりで、とても面白いゼミ生活を送らせてもらった。

また、私が演習ゼミに受講させていただいたもう二人の教官にも大変お世話になった。東アジア社会史演習の内山先生と、日本語論演習の小池先生である。まず、私は内山先生のゼミに参加することで、議論の楽しさを知ることが出来たことに加え、中華料理の真髄を教えていただいたことで、私はひとつ大人の階段を上れたのではないだろうか。そして小池先生の下で勉強することで、自分がどれだけ素晴らしい言語を、どれだけ無自覚に使っていたかを自覚することが出来た。そしてこれは勝手に学んだことではあるが、先生には大人の男の毅然とした態度がどんなものであるか、肌で感じさせていただいた。

三者三様の個性で私を魅了し、成長させてくれた三人の先生に心から感謝の言葉を送りたい。

最後に、昨年12月の初めに他界した祖父に。ありがとう。そしてまたいつか会いましょう。

ついでに、宇都宮大学に入学してから出合った全ての人にもありがとう。みなさんのおかげで私はものすごく楽しく、充実した四年間を手にする事が出来た。

2003年1月8日

熊本真一